



TITLE:

支那農業の片影(上)

AUTHOR(S):

財部, 静治

---

CITATION:

財部, 静治. 支那農業の片影(上). 經濟論叢 1938, 46(2): 211-220

ISSUE DATE:

1938-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131062>

RIGHT:

# 京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 二 號 第 四 十 六 卷

昭和十三年二月一日發行

## 論 叢

歐米に於ける日本學研究に就いて

經濟學博士 本庄榮治郎

支那農業の片影

法學博士 財部靜治

銀行機構に於ける通貨の創作

經濟學博士 小島昌太郎

統計教育論

經濟學博士 蜷川虎三

## 時 論

昭和十三年度の増稅

經濟學博士 汐見三郎

## 講 演

新興化學工業

工學博士 喜多源逸

## 研 究

生命保險事業に於ける投資の特性

經濟學士 西藤雅夫

企業結合と外部節約

經濟學士 田杉 競

## 說 苑

一追放學者の觀たるナチスの經濟理論

經濟學士 中川與之助

ヴァイナーの國際貿易論研究

經濟學士 松井 清

リカアドウの爲替論と購買力平價說

經濟學士 有井 治

リーフマンの問屋制度論

經濟學士 堀江英一

## 附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁 轉 載)

# 支那農業の片影（上）

財部 靜治

## 一

「秋の大原へ」とは客秋鞍馬雲ヶ畑バスか京都市電車内に廣告せる所なり、こは京都市郊外の大原が行樂の一景勝たるがためなりと雖も、秋の大原へと改めて冥想を新たにするも時を得たりとすべし、蓋し北支へ渡海の便を借る限り皇軍急進の蹤を履みバスを右支那本部北西の一古都へも驅り得べければなり、否寧ろ皇軍の武威南北支那を通じ大に揚れると共に多大の犠牲も拂はれたる今日、一般邦人としては支那文化特にその經濟生活に關する宏汎又確實なる理解と西洋文化との之が比較に關心すること一層深きの要あるを想はずんばあらず、就中支那の農業は數十世紀來の舊態を株守して幼稚なり、その農民は夥しきも通じて貧困なりとは、多年歐米の皮想的論客により輕侮され來りし所なるも、現世紀に入りてより専門的現地調査及研究加へらるるに従ひ、諸地方の真相漸次明かにせらるると共に公平の評論に還らんとするの風潮は窺はる、農業の支那は働く人にて充てり、その風光は何處にても利用の一面を示し、注意は惜し氣なく食及衣料の製出に注がるるを顯現す、耕作されたる土地は殆んど一切を通じ人の直接利用を目的として培養せる作物に當てらる、養畜農業振はざるがために農場又は乾草仕立地は存せず、果樹園及森林地區は多少の丘陵側面にあるものを除けば寧ろ之を見ることなきや著し、食物が作出

され得べき所勤勉なる支那農民はその仕事に當る、收穫面積を増すため低地は堤防により防がれ丘陵斜面には段々を付せられ處によりその地に水稻作をも施さる、一見不毛と想はるる土地さへ燃料用の草産出の用に充てらるゝと Cressey が大體に觀せしは<sup>1)</sup>右の風潮を極めて梗概的に代表せるものと謂ふべし、「四十世紀の農民」とは農藝化學の造詣深き前の Wisconsin 大學農學教授 King が本邦農業の研究と共に支那土壤の永年に亙る周約的連續的利用を明快に描寫せる一著の表題（本誌神戸博士還曆祝賀記念論文集四九八頁には前記 Cressey の所報より一九二六年版行とせるも、その以前 Eastford 一九一六年の著「支那」中諸所に同著を引用するによりて考ふるに最初の公刊はその以前に存せしものと想はる、今之を附記して後日の精査を期す）とせる所なるが、同著は魅惑に富める本研究題目に就きこの風潮を促すに多大の貢獻を及ぼせるものの如し。<sup>2)</sup>實に支那の領土は廣大なるのみならず、北及西偏には山岳連互せるに對し東及南には太平洋を控へ、國內南北風土の背反は著しく、夏及冬氣候事情に特殊の對照を窺はしむると共に、民族の特質否寧ろ幾世紀を重ねる間に馴致せる習性は之と相待ちて、その農業事情に多大の複雜性持續性を宿さしむとすべきものの如し、近くは東亞文教振興協會會議に蒞む支那側代表間の一致せる意見として、「支那は農業立國の國であり、日本が支那の農業施設についてより學問的注意と社會政策的協力をしてほしい」とせる由傳へらるるに依りてもその一端は窺はる、支那農業及農民に關する多方面の事情を汎博に又順序立てて敘説するが如きは別にその途を講ずることとし、二三特色視するの値ありと考ふる點を剔抉して之が略敍小評論を試むるは本論の意圖す所なり。

1) cf. Cressey, China's Geographic Foundations, p. 80.  
2) cf. L. Du-dley Stamp, Asia: An Economic and Regional Geography, 29, Lond, p. 468.  
3) 大阪毎日新聞十一月二十七日記事參照

支那農業を攷ふるに當り先づ深く顧慮すべきはその地位並に之に伴ふ諸氣象現象にあり、支那地圖を米大陸に遷し北緯相當の並行緯度上におかんか、そは北米合衆國のみならず西印度、墨西哥灣、墨西哥の大部分及中米の相當部分を掩ふべし、舊支那本部は殆んど全く溫帶圈内にあり、唯極南の三省雲南廣西及廣東の諸部分のみ熱帶内にあり、その地位は大體に於て世界に於ける一大國として最良氣候を之に備はらしむ、最北部に於て陸稻を主とする以外主要食料たる水稻が舊十八省の何れにありても多少の產出を見ざるはなく、國中の相當部分に於ては二回以上收穫の望あらしむ、支那が穀作に恵まれ夥しき人口を養ひ得たる點に於ては大體に印度とその趣を同じうする所なり<sup>4)</sup>。

季節による氣候の變化は著しく、又その季その季に吹きしきる風如何によりて大に影響せらる、秋に始まりて冬にその本領を發揮すべき冬季配置と、春に起りて夏にその威力を奮ふべき夏季配置とに分ち考ふるを便宜とす。冬季に於ける支那の天氣模様は大陸の内部を掩へる高氣壓近寒の大氣塊により支配せらる、支那全般に互り氣壓の等差は急なり、從つて強き寒風は十月中旬と翌年三月との間外方海に向ひて吹く、高原よりの吹風により幾分か溫度を加ふるも是等の風は特に北支を掩ひ甚だ寒くして特に又強きにより有名にして又惡まるる塵煙を揚ぐ、支那海に於ける荒模様はその餘波としての一結果なり、此冬季々節風の普通方向は北支にては北西よりし中支にては北よりし南支にては北東よりするにあり、その方向は比較的に恒同を續く、かくて大陸邊境上空の空氣が秋より冬にかけ寒冷を及ぼすこと早きは熱帶亞熱帶の海が南支に及ぼす影響より甚し、冬季寒風の結果は正月に於ける同溫線<sup>4)</sup>の方向によりよく窺はる。北支の全部は冬季氷點以下たり。一月の同溫線は北半球に於ける極南限(北緯

4) cf. Bashford, China. p. 20.

三二度)に至る迄華氏三二度なり、(之を北緯三五度に限れる鐵道院案内は二三と報ず)香港に於てさへ稀なりとは言へ霜及雪を見ざるに非ず、氷は南方遙かにハワナ及カルコッタと略ぼその緯度を同じうする廣東にても續ばれ、小降雪はカイロ及ニュー、オーレアンスと略ぼ同緯度たり唯稍々高き海拔を有するに過ぎざる中支に普通なり、北支の冬は寒きによりアゼンス、ワシトン及サン、フランシスコと略同緯度に位し陸内への入込も深しとせざる北京は、一月及二月の溫度右三都市の何れよりも低し、全體として内部諸盆地は海岸に比して溫暖なり赭土質盆地に於ける成都の一月中平均溫度華氏四四度に對し、同緯度に於ける海岸の上海にては三八度たり、右赭土質盆地にては霜及雪は稀なるも上海にては普通なり、北支にては最大河と雖も冬は氷結し盡さる、内部の砂漠より吹おろす支那の寒風は素より甚だ乾燥し。空氣一般に清朗にして空には殆んど雲なく又雨なし、凜烈なる疾風を伴ふべき高溫の日照を見るは屢々なり、日射の下華氏七〇乃至八〇度日蔭にて一〇乃至二〇度なり。風は十二月一月二月に最も強く北京が黃塵の災禍に困しむは是等の諸月中にあり、四月迄に高氣壓配置は中支を掩ひて崩れ盡し全支に於ける風は軟らぎて多變なり、されど時ありて四月乃至五月の溫暖諸月を通じ乾ける陸風は北支を掩ひて眞直に續けられ、作物に大害を及ぼすことあり、北支に於て冬の諸月中雨なきことは降雨の九一%が五乃至九の諸月に降下すべき北京により例證せらる、この定期回歸性は南支の西江流域にても同性質たり、されど中支にては特に海岸に近き所冬季中ににも著しき雨量あり、是等冬の雨は赭土質盆地に起り揚子江流域を下向的に流す旋風の氣動によると一部の人により信ぜらる、即ち是等低氣壓の一つが到來することを前觸れする風は東風及南東風たり、別言すけば海よりし従ひて雨を帶ぶ、低氣壓の跡に於ける風は強くしてそは力を加へたる北西風たり。中亞に

於ける高氣壓配置四月に崩れて以後は内陸地方に低氣壓形成せられ、夏季季節風は始まり六乃至八月には間々力強く吹き。そは九月未迄續く、支那全部を掩ひ威壓的なる風は南風及南東風にして溫暖又濕潤なり、支那本部の北及北西に於ける涸竭せる大陸土が熱するの早きや、諸海洋が南支及東支に及ぼすより勝り、立昇れる溫暖の空氣は低氣壓の面積を生む、その一結果として濕氣を帶べる風は大洋より北方に向けて吹き雨を齎すべきも、北進するに従ひ水蒸氣を含むこと愈々少くして雨量も遞減す、正に印度と反對に支那の夏季季節風が冬の風程強くして恒同的なるは稀なり、印度にては突起せる高岳の障壁あり、かくて然らずとせば亞細亞の心部より吹流すべき強き寒風は之により遮ぎらる、支那の五乃至九月は雨季なり、降雨は南及東に最も多く（廣東七〇吋）四〇吋の同雨量線は揚子江流域の北境に沿ひて張らる（上海三〇吋）北支那は之に比し一層雨に乏しく北京にて約二五吋なり（天津一六吋）含溫の暖季節風による溫和化影響は七月の同溫線筋によく窺はる、七月に於ける北京（華氏七九度）上海（八〇度）及香港（八二度）溫度間の差は微小なり（夏の總平均溫度七八・八度）北及南支にありては降雨は七月最多に達し季節風の弱化に従ひて減す（季節風の典型的支配）その間數地方に於ける洪水は頻繁なり、されど中支にありてはその事情は又揚子江流域を流れ曳く淺低氣壓により紊され、夏季に二高溫あり六月及八月に於て然り、八月の最高溫はその月中中支沿岸に於て特に危險なる颱風に關係ありとす、北支に於けるより早く四月及五月に來るべき雨季には川は何處にても溢れ、河邊都市の多くは部分的に間々數日に亙り浸水せらる、乾ける天氣は二月三月九月十月に到來し一年中最も心地よく又健康に適せる時たり、北回歸線によりその中部を劃せらるる南支は溫度高きも、その緯度より推すべき程には然りとせず、雨季は夏にあり海洋より寄せ來る濕氣を雨露化せしむべき連山

を背後に控ゆる沿岸の豪雨は特に烈し、香港にては一年に八〇吋以上に達し南支沿岸を沿ひ平均殆んど六〇吋なり、冬の諸月は一般に乾燥す右二季により温度に大差あり、夏は冬に於けるより十倍の雨あることも珍しからずかくて頻繁に支那を犯せる洪水の一部は夏季氣候の季節的性質に歸し得べし、雨が數ヶ月の間に集めらることは頻繁に車軸を流すが如き大雨並にその結果として河川及排水設備の水嵩過大激増を意味す。<sup>4)</sup>

支那の沿岸は地震又は火山爆發によりて起るべき所謂海嘯の害を蒙ることなきも、東南岸は劇しき嵐又は颱風によりて屢々襲はれ、海嘯によるものと大差なき現象は岸壁が之により破壊され海に沿へる土地に海水溢るる所に起る、颱風の平均數は一年に付一六なり、是等の旋風の嵐は Guam 島近くの太平洋に集まり、北西の方向をとりて進み北は上海迄達すること稀なり、嵐の中心は一時間八乃至五〇哩の速さにて進み、中心の周りをドロボウ廻りに吹き行く風はその速度一時間五〇乃至一一〇哩に達す。颱風の損害は海に沿へる狹小の地積に限らる、苦痛は主として財産の破棄より惹起され、人命の喪失は倒壊せる家屋により惹起さる、多數の家畜は殺さるるも作物は岸壁破壊され海水農場を浸す所以外には害されず、此種の災害により受くる食料損失は飢饉を惹起するに至らず、唯嘗て烈しき颱風沿岸を吹きまくれる際僅かに三日間に過ぎざりしも車軸を流すが如き降雨之に伴ひ、江南東部廣さ一二〇〇平方哩に及び六千の都市町村を含める平原をして端より端迄水深四呎の下におきしことあり。こは颱風陸に上るに當りて惹起されし龍卷を伴へるにより起りし所なりき。<sup>6)</sup>

以上説き來れる後を承け總括的に大觀するに、地勢的支那三連衡別は氣候事情によりても確立され得べし、素より東西の相違と相俟ちて南北間に幾多氣候偏倚挿まるべきを以て確乎たる自然的境界を劃し兼ねべきも漠然黃

5) cf. Stamp, op. Cit. pp. 475-460, Latourette. The Chinese I, pp. 10, 11, Official Guide-book. China. p. ix.  
6) cf. Mallory, China: Land of Famine, p. 63; Moule, The Chinese People, p. 68 Off. Guide-book, opcit.



河揚子江西江三大河の流域として分ち、或は北嶺及南嶺により之を分つべし、鐵道院支那案内はかくて蒙古及滿洲境より北緯三五度を北、同三五乃至二四度を中、二四乃至二〇度を南として分ちしが、Stamp は稍々之とその趣を異にし左の區別を立てたり。

北支。甚だ寒く雨なき冬（一月は華氏三二度以下）黃塵を齎すべき強陸風を伴ふ、暑くして濕氣ある夏は殆んど南支と同溫なり、降雨は三吋以下にして中南支に於けるより少し。

中支。冬寒きも平均海洋並み溫度は氷點以上なり、主要雨季は又夏にあり、地方的旋風の氣節は冬の著しき降雨を惹起し得べし、内陸は冬季中海岸に比して溫暖なり。

南支。熱帶季節風の氣候を有しガンデス盆地の氣候と多くの仕方に比較され得べきも、之に比し寧ろ寒き冬を有す。

支那氣候の地方的相違に就きては上來相當に考慮したるも、別に尙支那の僻遠なる西南、西部及西北に於ける數地方に關し一觀測を重ねるは、支那の諸事情に關する知識を博うするの目的上有用なり、就中雲南省は中央の高原海拔五千乃至七千呎なる地に於て四時一樣なる氣候を有す、夏の溫度は日蔭にて華氏八六度を超ゆること稀なり、冬は溫和なり、東方に向ひ霜及雪も一層嚴しく又一層永かべき貴州の境迄は然りとす、支那本部の最大省たり數十年前迄二一八、五三三平方哩の面積六八、七二四、八〇〇の人口（一九〇〇年の義和團匪事件後列國への償金に關し諸省別割宛の標準を定めんとして調査せる所に據れるが如し、それ自體としても見積過多に失するに似たり）を有せる四川（舊說蜀境揚子江の支流たる岷瀘雅巴四大川あり四川の名ここに昉まる）の大部分に於ける氣候は健康に適し溫度の烈し

き兩極端を見ることなし、夏季水銀は百度を超ふること殆んどなし、大平原及谷にても三五度以下に降るは稀なり、陝西は支那民族搖籃の地なり、その首府西安は多くの世紀を通し支那の首府たりき、(陝西は「關の西」評言すれば潼關即ち陝西、山西、河南が接合する關門の西を意味す)山西(東方河北と同省とを分つべき諸丘陵の西を意味す)は長城の二趾により横ぎられ、西及南は黃河によりて境せらる、そは紀元前二千三百年の北支那古帝玉中の半有史的にして後世の支那文教に影響を及ぼすこと最も大なりし堯の家郷たり、又輓近の平陽に近くその統治の中心を立てたり、是等二省は隣の大省甘肅に比し遙かに溫暖なる氣候を有す、甘肅にては寒氣嚴しく皮革及毛皮は庶民によりても普通に着用せらる、甘肅は戈壁の砂漠を横ぎりて西北は準噶爾 *Soungaria* の境迄延び、西は西藏の境迄及ぶ右最後に擧げし三省は最も乾燥し旱魃のための飢饉割合に普通なるも、通常夏季の降雨は一〇乃至三〇吋の間を上下しそは收穫を擧げしむるに足れり而も亦是等諸省は夫等の地方に於ける降雨の不定により大に困しみ、洪水及旱魃は揚子江(その一大支流たる金沙江の水源は遠く北西支にあり、辭源が同河を叙説する所によるに長江之上游、或稱小金沙江、北金沙江、以産金沙、故名、源出青海極西巴顏喀喇山陽、番名木魯烏蘇河、曲折東南流二千數百里、經四川西徼之巴塘、南流入雲南西北邊經麗江縣北、曰麗江、俗名金沙江、東迤北至四川、成一大曲、與黃河大曲遙々相向、自雷波迤而東北、有馬湖江之名又東北經屏山、至宜賓縣城東、合岷江東流、爲大江、即今通稱之長江是也とあり)及黃河の流るる大地域を荒廢せしむ、そは主として是等二大河がその山源の大山脈に於ける雪の溶解異常なるより起る所たり、福州領事たりし英人 *C. Werner* がその主幹編纂に係る支那人敘事社會學中支那の災異に就き表示せる所によるに過去四千年中大飢饉八四は過度の出水七一は旱魃によれり、溢るる河水をその河床に堰止次いで之を最もその必要を告ぐる所に灌水するは、古代の土功によりても又今日迄の所輓近の技術によりても達し得ざりし所なり、雪時に於ける是等異變

は幾分か印度に於ける夏季季節風降雨の異變ナイルに於ける時氣動搖に相當す<sup>8)</sup>

### 三

降雨及氣溫に於ける南北の著しき相違は延びてその風光及作物上北支をして揚子江流域及南支沿岸とを全く別物たらしむ、吾人は本誌上巻に支那南北辨を掲げしか聊か重複に互る點なしとせざるも、今専ら氣候の影響に着目し更に敘説を加へんと欲す。

南にては諸平原諸丘陵綠色たり、繁茂期は六ヶ月乃至全年に亘り一年中二作物三作物は收穫せられ主穀は稻たり、北にては冬季中丘陵及平原褐色にして砂塵揚り繁茂期は短かくして四乃至六ヶ月たり、一年内に二作物以上は得られず、小麥粟高粱黍は主穀物たり豆は博く産出せらる、北支は又漸次北の方砂漠狀態呈露せらるる地域に變り行き、半涸竭否砂漠狀況は處により南の方遠く十八省最北の一系列迄及ぼさる、又北にては夏の暑熱及雨は草木繁茂の刺戟となるも乾燥せる冬は強き植物以外一切の草木を枯れしむ、従ひて樹木は容易に伸長せず特色たる樹林は潤落葉樹よりなる、氣候と土壤の性質とに訴へ北支の多くが何れの日か嘗て樹木昌へしことありしや疑はし、之に反し南支は繁茂期永く雨多きがため植樹のために好都合なり、植物は遙かに鬱蒼たり森林は速かに成長す<sup>9)</sup>。

一面北支と他面揚子江流域及南支との氣候相違は、右二大地域間に於ける他の諸背反を部分的に説明す北に降雨不定にして屢々之を見ざることあるは夥しき飢饉を意味し、寒き冬は健康に害あり、寒さと砂塵の嵐とは民衆を屋内不衛生の空氣内に引籠らしめ勝ちなり、住居の暖房不足を續け重衣は習慣的となり、冬の洗濯及沐浴は困

8) cf. Moule, op. cit. pp. 66-68; Bashford, China, pp. 21, 22.

9) cf. Latourette, op' cit. pp. 11, 12.

難なり、かかる事情の下疾病は猖獗なり、植物繁茂期短かきため一年中一短期間内には劇しく働かざるも殘餘の長月日は已むを得ず懶惰に送る、自宅工業は陰鬱季農閑を部分的に活用せしむるに過ぎず、田舎人の大部分にとり職業なきことは收穫と春の播種との間に於ける長間隙中道德弛廢を助長せしむ、北支の頻繁なる飢饉は又人口の質を劣弱ならしむるの傾向あり、揚子江流域及南支にありては之に反し冬の氣溫溫和なり砂塵の嵐は起らず、屋外の行動と頻繁なる入浴とは可能なり、繁茂期永きことは農民の怠惰を短からしめ又は之を避けしむ、飢饉起るは稀なり、從ひて近時の諸世紀中揚子江流域及南の支那人が自發的たり又指導的たる點に於て並らして高き事實争はれざりしは多分部分的にはその事由を國土二大域の氣候的背反に歸せしめ得べし。揚子江流域及南支と雖もその氣候全年を通じ好適なりとはせず、生氣潑刺を鈍らすべき含濕の炎暑は部分的に冬季による利益を差引きて残りなからしむ。支那を通じ降雨が春及夏に集積するは土地の生産力を低下せしむ、雨量全年を通じ一層均等に分配されんか收穫一層佳良なるを得ん、北支に於ける一噓當り産額を北米合衆國及歐洲の大部分に於けるより低からしむる一因は虞らくは此點に發見され得べし。<sup>10)</sup>

又牝牛羊及馬の如く主として牧草及枯草を食餌とする家畜の貧弱は部分的には又氣候に歸し得べし、濕氣ある夏の生ひ茂れる青草は食用及消化に困難を訴へしむべき粗硬の草を生ず、支那人が豕及鶏の如き芥浚ひたる動物食によるはその背後に氣候的一因子を有すとするを得ん、夏暑くてして多濕なる揚子江流域及南支は北支に於けるよりも此牧草存せざるの結果を示すこと一層多し。

以上吾人は氣候事情により支那の農業及農民生活に及ぼす影響を梗概的に説き來れり、若し夫れ農業を主眼點となし氣候事情が地理及歴史上の諸事情と相俟ちて之にその影響を及ぼし、如何なる數顯著事相に於て歐米農業とその面目を異にするかは、以下瞥見せんとする所なり。(未完)

10) cf. Latourette, op. cit. pp. 12, 13.